

昭和48年1月13日第3種郵便認可HSK通巻496号

発行/北海道障害者団体定期刊行物協会

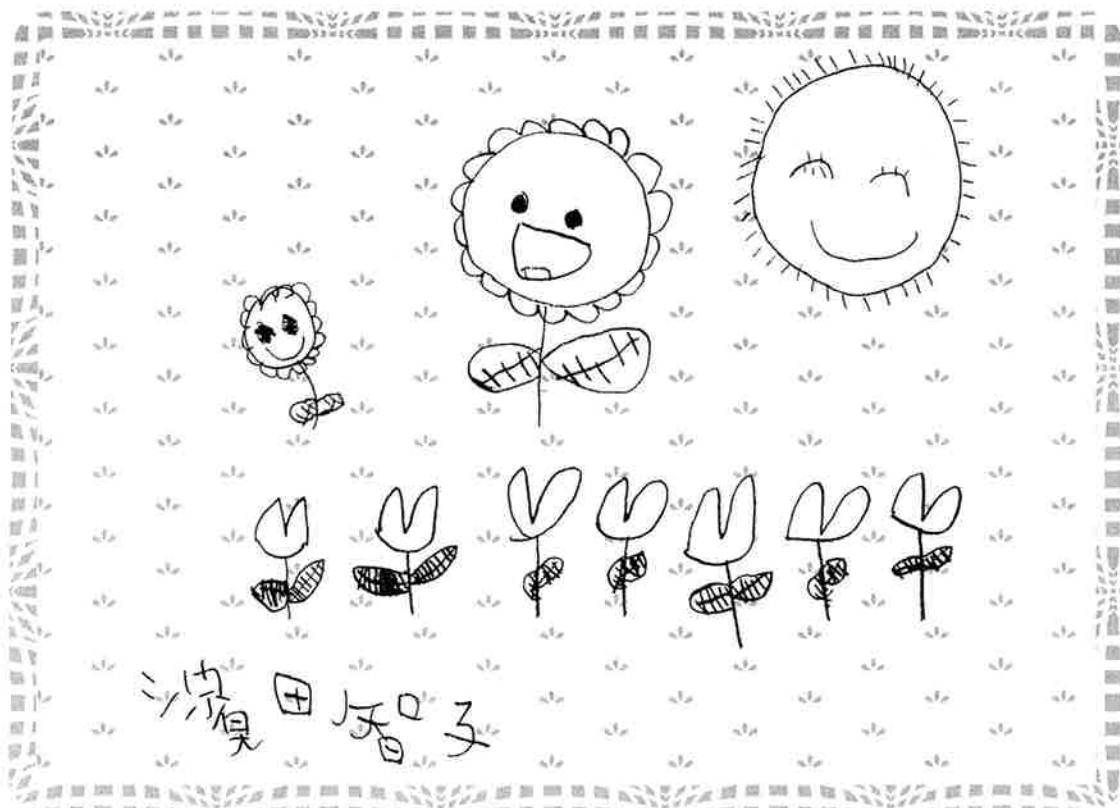
発行日/2013年7月10日(毎月10日発行)1部50円(会費を含む)

編集/白老町手をつなぐ育成会 佐藤春光

会報/202

2013. 7月号

ほまじみ



白老町手をつなぐ育成会

後援会費の納入ありがとうございます

毎年毎年、縁あってフロンティアの後援会費を振り込んで下さっている皆さんに心から感謝いたします。社会福祉法人ホープを立ち上げた頃、5年分、10年分、はては一生分の後援会費の前払いもお願いしました。そんな私たちの勝手なお願いに耳を傾けていただき、ご支援を続けてきて下さったおかげで、年間100万円そこそこの予算の作業所から総額で1億円を超す予算規模のフロンティアにまで発展することができました。予算の拡大は、社会福祉法人ホープがたくさんの障害を持った人たちと関わるようになり、支援できるまで増えたになったことの証だと思えます。

もちろん、職員と利用者の工賃や人件費を払ったら、残りは140万円の黒字というぎりぎりが昨年度の決算でした。

現在フロンティアの利用者の工賃（賃金にまでならない賃金）は平均で月20,000円弱です。6月の賃金改定で20,000円を越す工賃にしたいと思っていますが、障害者年金と合わせて、自立できる工賃にはまだ距離があります。平均工賃が35,000円。それがフロンティアの当面の目標工賃です。

フロンティア登別(登別事業所)のその後

やっと土地が見つかった（富浦）と喜んでいたら、その場所が地滑り防止の治山事業が行われた場所で、まだ危険地区に指定されていたため、建物を建てる事ができないとわかりました（5月中旬）。そんな時、北海道コンクリート工業(株)登別工場より会館を取り壊すので備品でいるものがあたらあげるよという話が有り、新しい事業所で使えるものをいただくことにしました。

しかし、フロンティアでは保管する場所がありません。そこで、近くで倉庫を持っている人で無料で2年間貸してくれる人を探したところ、快く『倉庫を貸してあげるよ』とワカキ玩具店のご主人が声を上げて下さいました。倉庫に物を運んでいるとき、土地を探している事を話したところ、翌日の朝電話で『土地ならたくさんあるよ』と紹介して下さいたのが中登別の場所でした。その場所に行ってみると大きな桜の木があり、横には大きな銀杏の木もある素敵な景観の場所でした。『こんなところに作業所を建てることができたら夢が広がる』と胸をふくらませて地主さんとお話ししたところ『OK!』の返事、一気に話が進みました。そこで、作業所もちょっと景観にあった設計に変更しました。

皆さんもできあがりを楽しみにして下さい。

後援会費ありがとうございました

矢尻真喜生、高橋千栄子、佐藤理永、金子満、笹原明美、佐々木清、佐々木雅子、白鳥克己、白鳥明美、田湯ひろみ、田湯憲明、岡沢幸一、松田博志、松田眞智子、中島康晴、清川昌廣、清川裕子、(株)白老ガス、浅井力夫、大井香代子、鈴木忠雄、杉原文子、山口純子、荒井佳名子、鎌田忠男、丸山伸也、上澤照雄、北村生長男、山口和雄、亀山あけみ、生田医院、黒沢剛、美濃広行、佐藤照美、有田勝、有田喜美子、高久賢、桐山智枝、納田郁代、中山晃一、市町峰行、児玉久美子、荒川三枝子、西條林哉、金子弘、カメラのむらかみ、岩崎良子、(有)画建築設計、本郷英彰、門脇友子、長沼達雄、三谷耕、堀尾昌司、(有)塚原鉄工所、清水政志、荻野芳子、千葉裕子、山口ひとみ、宮本式子、駒本智佐子、香田裕之、西澤貞雄、東松慶子、加藤孝信、鶴飼和敏、(株)田湯建具、藤田良一、藤田美津子、舟木勲、玉井洋一、玉井敏子、北昭興業(株)、相澤道男、阿部博、加藤泰男、加藤武信、赤松竜、東山安治、勝浦雅子、塩出悦嗣、橋本紀子、佐藤春光、佐藤美穂子、松尾久美子、道山晴美、蒲原章、蒲原令子、秋山ゆり子、高屋敷勝一、坂本元次、武田ミヤ子、細川愛、中馬潔子、須田由実子、大上恵美子、南館まち子、高畠恵子、森田恭子、岡山英次、大坂一彦、栗林隆司、大島工業(有)、神征四郎、伊瀬進、尾崎弘子、羽山陽子、秋保肇、渡辺昭治、右田照代、高谷恵子、(株)牧野鉄筋、鈴木産業運輸(株)、大昭和紙工産業(株)、根本教久、幡谷彰生、幡谷裕美、(株)白電社、田中紗代、桑田智子、小川智恵子、協和製菓(株)、小松圭子、片山敏明、上村千嘉子、大山芳枝、金子敏明、長谷川美津子、原口弘子、田口良恵、池本啓子、大廻眞二、畠山忠弘、田中博治、山口由美、工藤靖博、白石芳子、吉田翠、長沢稔、森裕子、成田浩、横山智子、道南綜合土建(株)、紺野恵美子、(株)ヤマダリビング、工藤勉、山口奈美、編集工房 KAZE、国本忠孝、横井慎吾、野口良行、木村寛子、匿名、坂井光江、山口裕子、相木祝子、塩崎珠美、大塚明、成田弥智代、浜部敏明、堀澤正一、(株)牛の里、酒井正子、石井洋輝、林豊、山谷澄子、鈴木孝義、鈴木幸子、問谷佳子、新保裕、西倉邦昭、中西隆広、黒田明雄、佐藤商店、室蘭ヤクルト販売、荒川精一、水口馨、斉藤士郎、宗像千恵子、村田恵子、三上里奈、船越小津恵、富澤三恵、畑せい、協栄自工(有)、末岡啓美、堀田尚史、田中波留美、岡沢林太郎、本田孜、三河和枝、鈴木晶、金富久子、吉田和子、河上良枝、広瀬紀子、ナガイパック、坪谷真紀、佐野節子、田中岩雄、窪田るみ、庄司尚代、千田明美、中村明美、神戸典臣、福田くるみ、植村美代子、小幡秀雄、高木聡子、山崎美幸、袴田勲、不二家 FC 白老店、森隆治、毛利和子、

右肩よがり

下の表を見て下さい。この表は、札幌市手をつなぐ育成会の500号の記事の一部です。白老町でも特別支援学級の児童・生徒数が年々増え続けています。全道でも同じ傾向になっていることがわかれると思います。

そして、このことは全国的にも同じ傾向を示しているという事です。少子高齢化と言われている現代にあって、特別支援学級や特別支援学校の子どもたちだけが増え続けているとしたなら、何が原因なのか考えてみる必要があるのではないのでしょうか。ある地域だけだったら、特殊事情や地域性で片付けられると思います。しかし、全国的に同じ傾向があるとしたら、もはや特殊事情や地域性では片付けられません。

何か原因があるのです。過去も現在も同じ人口比率であれば、生物が持つリスクだと思います。しかし、過去と比べて障がい者の人口比率が上がっているとしたなら、人間という生物が持つリスクではなく、現代社会がもたらしている人間に対するリスクなのだと思います。

札幌市特別支援学級（知的・情緒障がい）在籍生徒数の推移

	小学生							中学生			
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計
平 25 年度	225	211	226	212	238	249	1361	220	250	283	753
平 24 年度	193	199	187	207	238	183	1207	232	262	239	733
平 23 年度	181	167	173	222	178	182	1103	219	213	231	663
平 22 年度	141	157	185	162	171	200	1016	189	212	234	635
平 21 年度	120	163	151	152	183	162	931	180	205	206	591

※今後10年間は生徒数が増え続けていくことが確認できます。

また、同じ学年でも年度が進むごとに在籍の生徒が増えていっています。

障害越え 進む「共生」

幕別高校舎内に特別支援学校

中札内高等養護幕別分校



合同行事として行ったスポーツ大会で、サッカーに汗を流す中札内高等養護学校幕別分校と幕別高の生徒たち=5月17日

十勝管内幕別町の幕別高(松下高広校長、110人)の校舎内に4月、中札内高等養護学校幕別分校(赤松拓校長、7人)が開校された。普通高校と特別支援学校が校舎を共用するのは道内で初めて、障害の有無を越えた生徒同士の交流による「共生教育」に期待がかかる。特別支援学校の増設が求められる中、少子化で増える普通高校の空き校舎や空き教室の有効活用事例としても、注目を集めそうだ。

(普及報道部 原田隆幸)

スポーツ大会で交流

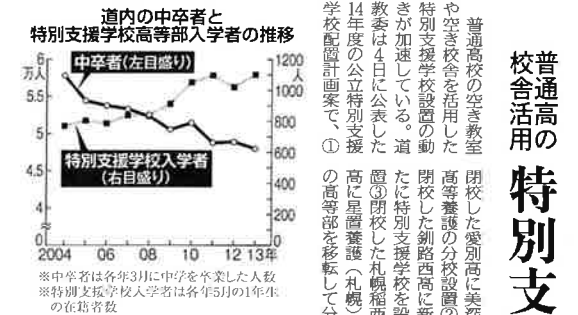
「尊重する意識養われる」

「1期生として、学校を築き上げられるように努力したい」。今月8日、幕別分校は、道内初の幕別高で開かれた分校、事、コスト面などの理由の開校式。1年生の代表から分校の形をとった。教室は、2006年度に

生徒数減少に伴い1学年4学級から2学級に減った幕別高の空き教室を改修。分校用の職員室や事務室も設けた。分校と幕別高の交流は別々に行われ、

分校と高校の生徒が自己紹介をした。5月17日のスポーツ大会では、知的障害のある分校の生徒もキックベースボールやサッカーに参加し、一緒に汗を流した。本校の中札内高等養護学校と兼務する赤松校長は「多感な高校時代に同じ場所での生活をもっとし、自然な状況で互いに顔を合わせることで、それぞれを尊重する意識が養われる」と意

義を強調する。分校1年生と高校1年生は、ジャージーや上履を同じ色でそろえ、同学年と同じ色の統一感を出した。高校の生徒が分校クラスを訪れて談笑するなど、自然発生的な交流も分校と合同で開く予定で、交流を深めていくという。



普通高の特別支援校の設置加速

普通高の空き教室や空き校舎を活用した特別支援校設置の動きが加速している。道に特別支援校を設けることがあつた。道教委は4日に公表した14年度の公立特別支援学校配置計画案で、

閉校した愛別高に特殊高等養護の分校設置の閉校した剣路西高に新設の進学者が増加していることがあつた。道教委特別支援部課は「障害の状態に応じた専門的教育を求める保護者のニーズが増えている」と分析する。

少子化と反比例して特別支援学校入学者が増えている傾向は全国でも同様だ。道外では、特別支援学校の分校や分教室を普通高校内に開設する動きが先行している。

入学者増、コストも抑制

そうした開設をしていく自治体は、大阪教育大学の富永光昭教授(特別支援教育論の専門家)によると、10年時点では16府県で、04年時点調査時の8倍に増えた。富永教授は「共生教育の効果も期待に加え、既存の学校施設を利用できる、財政コストを抑えることができる」と説明する。

静岡県立田方農業高校内に09年度に閉校した「沼津特別支援学校伊豆田方分校」では、高校と分校の生徒が定期的に一緒に授業を受ける。農業の授業なら高

校の生徒が、園芸の授業なら分校の生徒が、それぞれ主導的な役割を担うという。分校の伊藤教美副校長は「互いの生徒を尊重しあう形で交流が進んでいる」と手応えを語る。

富永教授は共生教育について「双方から自然な交流が生まれるのだっただけでなく、最初うちは交流する場面を(学校側が)つくることが必要で指摘。障害の有無にかかわらず楽しめるスポーツなどの交流により、「障害者がない子どもが何かを一緒にあける」という関係ではなく、ギブ・アンド・テークの関係に持っていくことが大事」と話している。

楽しかった」と話す。一方、高校の生徒会役員は三井朋美さん(19)は「分校生とちゃんと協力できるかなとも思ったが(高校の)生徒みんなが受け入れる雰囲気になっている。7月の文化祭も分校と合同で開く予定で、交流を深めていくという」。

ふろんていあ♡メール
Frontier

就労支援施設
フロンティア♡MAIL
2013年7月号
〒059-0922
白老町萩野310-110
TEL・FAX0144-83-3537



紙フェスティバル 2013.

七月七日に紙フェスティバルが開催されました。

今年は、創作・展示部門と制作体験部門としての参加です。

創作・展示部門では、フロンティアのミニチュア模型に取り組みました。

実寸の1/20の縮尺で制作し、全長が1.7m×1.4mの大作です。各班の方々に自分たちの作業部屋を作成してもらい、その他の部分も多くの利用者・職員の協力のもと完成しました。

フロンティアの紹介を添えて展示し、当日は小学生をはじめとする多くの人に興味深そうに見て貰いました。

制作体験のテーマは、かざぐるまの制作です。

ぶつかっても安全なように、中心軸には2つのストローを使用します。

厚紙に組み立て用の穴と切れ込みをあらかじめ入れておき、好きな色や絵を描いてから組み立てます。持ち手には段ボールを3枚重ねにし、ストローを段ボールの穴にさして完成です。



会場に扇風機も準備し、中心軸がねじ切れるほど遊んでいたお子さんもいました。

今回は残念ながら入賞はしませんでした。が、展示や風車作りを多くの人に楽しんで貰えたので大満足の紙フェスティバル参加になりました。

毛ガに御中元はいかがですか

今年も毛ガニのシーズンがやってきました。

7月25日～8月10日の15日間限りのとれたて毛ガニです。

かに味噌がしっかりしている美味しい毛ガニを選んで、1日水槽に置いて泥はきをさせてから茹でています。

茹でたてを冷ましてからクール便にて発送致します。

その他にもお菓子の詰め合わせ等もございます。御中元はいかがですか!

七月・八月の外販予定

- ◆7月21日(日曜日) 登別商店街のまつり
- ◆7月25日(木曜日) 消費生活展
- ◆7月27日(土曜日) 虎杖浜3大まつり
- ◆7月28日(日曜日) 虎杖浜3大まつり
- ◆8月2日(金曜日) 寿幸園まつり
- ◆8月4日(日曜日) ハマナイス
ピースフェスタ
- ◆8月8日(木曜日) ちびっ子フェス
- ◆8月10日(土曜日) 福祉大会えがおまつり



今年の夏も沢山の外販があります! 今現在予定されている外販は上記の通りです。皆さんのお来場をお待ちしています。

2013年8月のお盆休業のお知らせ

今年のお盆休みは下記の予定です!

8月12日(月曜日)～8月15日(木曜日)

今話題のEMボカシ製造・販売しています!

今テレビ・雑誌など色々な所で耳にするEMボカシ。

フロンティアでも製造・販売しています。

EMボカシって何と思っている方も沢山いるとおもいますが、

EMとは安全で有用な微生物だけを集めた多目的微生物資材です。

EM生ごみ発酵肥料は、生ごみをEMで発酵させたものです。EMが増殖して発酵が進んでいるため、土に混ぜると分解が進み良質の栄養源になると共に、優れた土壌改良に効果があります。

そのEMを使いEMボカシを製造して、生ごみ処理用、肥料用として600g入りで販売しております。(※分量は生ゴミも肥料もばらばらと蒔く程度で良い)是非お試し下さい! 生ごみは地球の栄養となります!



ほほえみ202号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
2013年7月10日発行(毎月10日発行)
H S K通巻番号496号 1部50円
編集/〒059-0922

北海道白老郡白老町萩野310-110
白老町手をつなぐ育成会 佐藤 春光
Tel 0144-83-3537

発行/〒063-0868

札幌市西区八軒8条東5丁目4-18
北海道障害者団体定期刊行物協会
細川久美子 (Tel. 011-736-1724)